

【本堂完成予想図】



設計：伊藤平左エ門建築事務所 望月氏

長沼禅苑 虚空庵便り

第 26 号

令和 7 年 3 月 3 日
発行 (宗)虚空庵 長沼禅苑
湯上市天王字追分117-217
TEL 018-873-7232
FAX 018-873-7233
長沼禅苑ホームページ



長沼禅苑 — 本堂建立計画を進めます —

長 沼禅苑を開苑して二十二年目を迎えることができました。これも偏に皆様方のお蔭様と心より感謝申し上げます。今年はいよいよ四月より本堂の工事に着手致します。

彼岸やお盆の法要・葬式・法事等の仏事、そして坐禅会や講話など禅文化の発信が行なえる伝統的建物として、さらに長沼禅苑の自然を感じられる明るく開放的な本堂にしたいと思っております。

老 子が広めた言葉、仏教（仏遺教経）の知足（足を知る）ことで幸せを感じることに
ついて考えてみました。

現代社会は沢山の物に囲まれ溢れるほどの情報の中で生活を日々を過ごしています。一見幸せを感じている人もいる中で、漠然とした不安や満たされない心を持つている人も多くみられます。その不安や不満等の不足感はどこからくるのか、それは自分が大自然や先祖、周りの方々によって生かされ、また与えられていることを忘れていないでしょうか。

先代住職は「人は自然に生かされている、だからこそ自然を感じることで元気をもらえ」との考えで、長沼禅苑を自然公園式墓苑にしました。その自然の中で静かに己を見つめ、日頃の行いを感じ、心を落ち着かせて安らぐ体験（坐禅）をしてみたいかがでしょうか、お勧めします。足るを知ること、不満を持たない穏やかな気持ちになれると思います。

大 本山總持寺開山太祖瑩山禪師さまの教えを記した『洞谷記（とうこくき）』の中に「師檀和合して、親しく水魚の昵づきをなし、来際一如にして骨肉の思いを致すべし」とあります。

意識 僧侶と檀信徒が和合し、水と魚のように親しく近づき合いなさい。ずっと未来に亘って心一つにし、血の繋がる肉親、親子のような思いで、



共に仏の道を歩んでゆくべきである。

解説 仏道修行というのは、一人で成就できるものではない。人々を救済しようと、一人ひとりに真摯に向き合い、悲しみや苦しみを共にし、寄り添い、導く。そうした他者との向き合いを通じて自己に向き合い、自己を知ることが出来る。こうした同悲同苦の菩薩道を実践していくことにより、仏道を体現化し、また伝えていくことが出来ると言えるでしょう。

（出典：曹洞宗ホームページより）
私はこの教えを、お互いがあつて成り立つこと・お陰様の精神（気持ち）を持つことがとても大事だと解釈しております。

お寺と利用される方・お寺と地域社会との関わり方を説いていると思ひ、長沼禅苑もこのようにありたいと、日々精進して皆様のご希望に添える様励みます。

これからもよろしく願ひ致します。

住職 村上武臣 合掌

本堂工事開始にあたって

本堂の建築工事が四月より始まります。工事期間中はご来苑の皆様にご迷惑をおかけすることとなりますが、安全第一で進めますので、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

亡くなった方への供養について

法事は、家族や縁者が故人の冥福を祈る大切な仏事です。形式や回数にこだわらず故人への慈しみ感謝そして弔う気持ちを大事にする事です。

長沼禅苑では、永代供養墓ご利用の方々から「できる限り自分達も供養をしたい」という声が多くあり、年々法事依頼も増えております。気軽に相談して下さい。仏堂・墓前・ご自宅での供養をお考えの方はご連絡をお願いします。

― 禅苑仏堂で一周忌法要(仏事)を行っての感想文 ―

昨年、母、父と相次いで両親が亡くなりました。

二人とも高齢であり、ある程度の準備は出来ていたとはいえ、葬儀の手配、親類・知人への連絡、各種手続き、自分の仕事と、無我夢中に過ぎ、しばらくの間は悲しむ時間も無いようになり様でした。

そこで一周忌法要を行った時に、やっと亡くなった両親のことを思い、心に一区切りつけることが出来たような、清々しい気持ちになりました。

法要を行うことは、日々の慌ただしさから離れ、読経の声に亡くなった方を想い悼む時を過ごすのは、故人の供養になるのは勿論ですが、残された者にとっても心の整理になるのではないかと思います。

令和七年法事年回表

一周忌	令和六年(二〇二四年)
三回忌	令和五年(二〇二三年)
七回忌	平成三十一年(二〇一九年) 令和元年
十三回忌	平成二十五年(二〇一三年)
十七回忌	平成二十一年(二〇〇九年)
二十三回忌	平成十五年(二〇〇三年)
二十七回忌	平成十一年(九九九年)
三十三回忌	平成五年(一九九三年)
五十回忌	昭和五十一年(一九七六年)
百回忌	大正十五年(一九二六年) 昭和元年

― 法要中のお参りについて ―

仏堂(位牌堂)内で葬式や法事の読経中は、法要開始以降終わるまでお待ちいただけます。なお、法要が始まる前はお参りできません。ご迷惑をおかけしますが宜しくお願いいたします。

植栽紹介コーナー

【蓮(ハス)】

インド原産のハス科、多年生水生植物
長沼禅苑の品種Ⅱ「即悲蓮」 中型種

名前の由来

日本での古名「はちす」は、花托の形状を蜂の巣に見立てたとするのが通説になっています。

「はす」はその転訛と言われます。

特徴

ハスの花は泥沼に生えても美しい花を咲かせることから、「ハスは泥より出でて泥に染まらず」と

清浄な仏の悟りを象徴する植物として、清浄を重んじる仏教の教えと通じるものがあるとされています。御本尊様(仏像)の台座や寺院の装飾に多く用いられています。

当苑の永代供養墓「宝篋印塔」の墓室名称は白蓮・紅蓮・木蓮・清蓮とし、蓮華「ハスの花」を用いて長沼禅苑の花園を想い命名しました。

開花の時期

花期は七月〜八月で早朝に咲き昼過ぎには閉じてしまいます。

咲く場所

【仏堂(位牌堂)前】、【宝印塔周囲】、【案内所(いこい庵)前】



〈植栽担当職員のメッセージ〉

初めて植えた年は一輪も咲いてくれませんでした。二年目からようやく花が咲き、昨年は植えた株全て花を咲かせてくれました。今年もたくさん可憐な花が咲いてくれることを願っています。午前中に苑内にいらした際は、ぜひご覧になってください。

◎蓮の種がありますのでご希望の方は寺務所にお声がけ下さい。

【令和六年】一年を振り返って



3月17日 彼岸会



7月27日 盆供養



9月30日 秋彼岸供養



10月22日～25日 天王南中生 職場体験



12月8日 成道会

お問い合わせは長沼禅苑まで
 ☎〇一八八七三七二二三二 FAX 〇一八八七三七二二三二
 (定休日のお知らせ) 毎月第二水曜日が定休日です。(八月は変更あり)



◎坐禅・写経の会 毎月第2・第4日曜日 午前9時
 ※サークル・団体での参加については別途お問合せ下さい。



◎梅花流詠讃歌教室
 毎月第1・第3火曜日 午後1時



◎お箏教室
 毎週土曜日 午前9時30分

定例開催

※開催日は変更になることもあります。事前にご確認下さい。各催しの会・教室は参加者を随時募集しております。

主な行持のお知らせ

○お彼岸

春

秋

彼岸入り 三月十七日 九月二十日
 彼岸中日 三月二十日(春分の日) 九月二十三日(秋分の日)
 彼岸明け 三月二十三日 九月二十六日

彼岸会法要は仏堂で読経致します。尚、読経中もお堂へのお参りは出来ません。

○盆供養

七月下旬予定 於 ログハウス「いこい庵」

＊今年、新盆を迎える方の施食供養です。

「ご供養の申込みは、後日郵送で案内いたします。

○秋彼岸供養

「お焚き上げに替わる供養

九月二十八日(日) 午後二時

※日時変更も有 於 長沼禅苑

＊卒塔婆・仏具等を読経にて供養し、鄭重に処分致します。

「ご希望の方は、前もって供養料(二ころざし)を添えて長沼禅苑までお申込みください。

○成道会

十二月十四日(日) 午前十時 於 仏堂



「いこい庵」の

ご利用について

ログハウス「いこい庵」は虚空庵長沼禅苑の安らぎの場として、永代供養墓等お墓をお求めに来苑される方、相談のある方々の案内所・休憩所・お手洗い等にご利用いただいております。

また、多目的ホールとして坐禅・写経の会、梅花流詠讃歌教室、お箏教室等、催しの場にもなっておりますので皆様の「憩い」の場として気軽にご利用ください。

※〇一八一八七三三七二二二二に事前に連絡必要



ログハウス「いこい庵」内部 多目的ホール

永代供養墓をご利用の皆様へお願い

日頃より「墓参の決まり」を守ってお参りいただき有難うございます。

皆様が続ぎ安全・安心にお参りできますように、火の元に気を付けてください。線香をお使い致します。

ろうソク・線香をお使いの方は、献花台に備え付けてあるろうソク立てと線香立てをお使いください。

火の用心



ろうソク・線香は献花台でお願いします

【あきた終活支援センター】のご案内

相続・不動産処分・お墓・葬儀など相談ごとに終活カウンセラーが対応致します。

営業時間/月～金 九時～十七時 (土日・祝日休み 事前予約で休日相談可)



所在地 秋田市大町一丁目3-8 秋田デライトビル2階(佛壇の升谷向い) 電話 018-827-3758 FAX 018-827-3759